

一般社団法人日本精神保健福祉学会 第12回全国学術研究集会（福島大会）終了のお礼

令和6年6月29日(土)～30日(日)、日本精神保健福祉学会第12回全国学術研究集会が福島学院大学において開催されました。東北の地で初の開催となりますが、148名の方々にご参加いただき、大会を無事に終了することができました。大会スタッフ一同、心より感謝申し上げます。また、大会の運営にあたりましては、不慣れな点が多く、ご迷惑をおかけしましたことと存じます。何卒、ご寛容くださいますようお願い申し上げます。

本大会では「復興の現在“知”と展望～東日本大震災におけるソーシャルワーク実践の継承～」をメインテーマとし、29日のワークショップ、記念講演、シンポジウムでは、それぞれの立場から被災地の現状を語っていただきました。30日の分科会（自由研究発表）では、16演題の口頭発表があり、多くの知見を得ることができたと感じています。さらに、本大会に併せ、28日にはエクスカージョンとして、東日本大震災・原子力災害伝承館と福島第一原子力発電所の視察を実施し、原発事故はまだ終わっていないことを改めて認識しました。

大会全体を通して、復興の現在“知”を共有し、災害支援を通して得た経験知をどのように継承していくかを検討できたのではないかと思います。参加された皆様には、見て、聴いて、感じたことを身近な人に伝えていただきたいと切に願います。

本学会の更なる発展を祈念して、第12回全国学術研究集会（福島大会）のお礼のご挨拶とさせていただきます。

最後に、長きにわたり大会準備にご尽力いただいた実行委員の皆様、会期中ボランティアスタッフとしてご活躍いただいた皆様、関係する全ての皆様に感謝し、厚く御礼申し上げます。

第12回全国学術研究集会（福島大会）

大会長 北本明日香